2,019 年３月 27 日　「奥浅草だより」22 号

山谷に誕生した映画喫茶「泪橋ホール」

高度経済成長期の労働者が高齢者になった街　山谷の中心部とでもいうべき泪橋交差点の傍に、「泪橋ホール」が 2019 年２月９日に開業しました。店主は写真家の多田裕美子さん（53 歳）。2016 年には『山谷　ヤマの男』（筑摩書房）という単行本を出版。昭和 40 年代から多田さんの両親がこの地で食堂を経営していたので、山谷に興味をもっていました。なぜ映画喫茶にしたかというと、かつての土木戦士として生き抜いた労働者が今や、高齢者となり山谷は福祉の街となったのですが、彼らに少しでも潤いをと考えたからです。そのために、古き佳き時代の昭和の映画を安価で見てもらいたい。この 25 人収容のカフェでは、午後３時から映画を上映します。京マチ子の「雨月物語」、イギリスサスペンスの「第三の男」、イタリアドラマ「自転車泥棒」などなど。

何故「泪橋」？　昔の地名が奇しくも残っている泪橋は、昔川だった明治通りと吉野通り（旧山谷通り）の交差点のことです。有名な小塚原刑場が近くにあったため、処刑される者を見送れるのはこの橋までで、涙を流し別れを悲しんだのでこの名前がつきました。川は今暗渠になっています。ここは荒川区と台東区にまたがる山谷地区の中心部で、「山谷」という地名は 1966 年の地番変更のため地図から消えましたが、交差点の名称は幸いにも生き残りました。そこで店に「泪橋ホール」という名称をつけたのです。喫茶だけでなく酒類や餃子なども提供しています。南千住駅が近いので、交通は抜群に便利です。

イメージカラーは深緑　この店は、緑色がベースです。イラストレーター龍神貴之さんによるデザインＴシャツは、緑色に白、白に緑のロゴをプリントしたものとの２種類あります。また、壁や什器のアクセントにこの深緑色を使っています。

運転資金　映画上映に必要な資金は、クラウドファンディングで集めました。まだオープンしたてですが、この地域の福祉活動は、このように善意と知恵によって運営されています。

～・～

この「奥浅草だより」は『奥浅草　地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しています。
サノックスのホームページでもご覧いただけます。http://www.sanox.co.jp
佐野陽子・江原晴郎・森下恒子